

『もりおかの短歌』夏の部

〈一般部門〉 優秀賞十首

木漏れ日こも びがやさしく揺ゆるる

不こずかた来方かたの

風かぜに転ころがる落おとし文ぶみかな

奥州市 小野寺洋一

年金ねんきんで暮くらす夫ふうふ婦ふに

つまかの間まの

旅たびの空そらし知るひめかみ姫神やまの山

東京都葛飾区 池崎富実夫

城跡じょうあとに高たかくそびえし

木々きぎの色いろみどり緑そへと染そまり

盛岡もりおかかぎ飾かぎる

紫波町 小原奈々

啄木たくぼくの歌碑かひを訪ねたずて不來方こずかたの

お城巡りしろめぐりの

みちのくの旅たび

山口県周南市 中村政一

じゃじゃ麺めんの店みせに旅人列たびびとれつをなす

梅雨つゆの盛岡もりおか

我がゆるり旅たび

神奈川県藤沢市 武正義

高松たかまつの池いけめぐりつつ

汗あせばむも

風かぜのよそぎを妻つまと親したしむ

花巻市 千田正平

チャグチャグと

音おとの百選馬ひやくせんうまコ往ゆく

華はなやかなりし盛岡もりおかの初夏しよか

盛岡市 河野康夫

もりおかの

さんさ踊りの太鼓の音
おど たいこ ね

頭上の枋の木の葉震わす
ずじょう とうち き はふる

盛岡市 鈴木充

鈴の音も蹄もかろき若駒の
すず ね ひづめ わかごま

背にて眠りし
せ ねむ

幼愛らし
おさなあい

青森県青森市 鈴木操

故郷すて出てきて最早や五十年
こきょう で も は ごじゅうねん

便り書きたや
たよ か

この文月に
ふみつき

盛岡市 渡邊定夫

『もりおかの短歌』夏の部

〈ジュニア部門〉 優秀賞

(応募時、中学生以下に限る)

該当なし

【講評】 一般部門

石川啄木の『一利己主義者と友人との対話』の中に、「おれは一秒がいとおしい。ただ逃がしてやりたくない。それを現すには歌が一番便利だ。」という言葉があります。すが、投稿された方々の作品には啄木の言葉と同じものを感じました。盛岡での出会いの中のひとこまを丁寧に掬いすくとっています。また、どの歌も上手に詠おうとせず、自然に言葉を述べているのが多く好感を持ちました。ただ中には、書きっぱなしの歌もありますが、推考するところが大切です。数多く短歌を作り、その中から選んで投稿して下さい。お待ちしております。

令和六年九月選 夏の部

投稿数 六十九 首

選者 山本 豊